

ヌメシキ一枚の大開戸の内に、小クバリ戸あり、鐵の横關貫を打懸にてとめる。
中クバリ 織部○古田重勝 伏見の屋敷にて、武用のためはじめて好まれしよし、杉の堀込柱に壁を
付て、ニジリ口より大ぶりの戸を用ゆ、板屋根兩方へさしおろし、戸尻に塗殘し、長窓障子なし、簾
ばかりなり。

角戸 猿戸ともいふ、利休形大小あり、堀こみ栗のナグリ、柱の根に戸あり。

揚簀戸 半部ともいふ、好み物にあらず、むかしよりあるを假用ゆ、小坐敷ニツありて、路ニツに分
る、露地などに用ゆ、揚簀戸おりてあらば、かたぐの道を行なり、此簀戸用る時は、客より前に揚
置く、又左なき時にも用ゆ。○圖

梅軒門 檜の堀込柱、杉皮屋根、竹簀戸の兩ひらきなり、廣庭の見切に用ゆ、所によりてこれより
客をむかふるもくるしからず。

京クバリ 檜の大引戸に小間の戸あり、外露地に用ゆ。

〔茶道早合點上〕猿戸

見切にすれば板戸、垣すれば猿戸也。

〔茶傳集十〕一角戸 誤て猿戸ト云、角柄戸は別也、猿戸は猿ヲ付、角柄戸はかけがね也、猿戸は高く、

角からは低シ、是を以別と可知。○中略

一なるこ戸 三齋翁二疊敷掛樋の手水鉢、此木戸外露地は細道左右畑也。

〔茶傳集十三〕一外の出戸を京戸といふ、是は地に付けて付敷居仕候ゆへ、石も平めなる大キなる

を内外に居へ申候、此石の上にて雪駄をはきかへる也、夫故石の面ヲ廣キが吉と仰。○細川三齋 なり、

〔茶道早合點上〕塵穴 はきためなり

敷松葉とて廬路に松葉をまく事あり、塵穴の中に青竹の箸あり、廣き庭には四方にもする、口切